

角田支局記者 田村賢心の Let's KAKUDA!

「地方発の風」

取材の現場で逆に質問を受けました。「報道の仕事に興味があります。インターンシップ(就業体験)やっていますか」。1月10日の角田市成人式で20歳の門出を迎えた感想を聞こうと晴れ着の女子大学生に声を掛けた時のことです。いつも地域の問題をのんびりと取材している身ですので、若者からの熱意あふれる問い掛けにはいささか当惑しつつも、記者の仕事に目を向けてもらい光栄に感じました。

質問の答えですが、河北新報社は東日本大震災の被災地で大学生が取材する「記者と駆けるインターン」を9年前から行っており、地方紙でありながら東京などからも多くの参加があります。昨年は新型コロナウイルスの影響で開催しなかったようです。式典の場だったので学生さんに内容を詳しく説明することはできませんでしたが、もしインターンが再開したら、ぜひ参加してもらいたいと思います。

金津中の生徒が進めている閉校記念誌の制作も、報道の仕事に興味を持ってもらうきっかけになりそうです。キャリア教育の一環で生徒が企画や取材を手掛けます。自分たちが暮らす地域の特色や誇りを再発見する機会になるでしょう。昨年には、本社の記者が情報発信の手法を教室でレクチャーしています。こうした経験を通して将来、金津中最後の卒業生の中から記者が誕生したとすれば、閉校記念誌の取り組みを記事にした自分としてもうれしい限りです。まずは記念誌が無事に完成し、地元に限らず市内外で広く読まれる価値の高い一冊になることを願います。金津の伝統文化や風土、そして生徒たち自身の活動や地元への思いを広く発信する効果も期待できるのではないのでしょうか。

新聞づくりでも似たようなことを考えています。河北新報は東北・宮城の地方紙で、全国紙に比べれば、取り上げるのはローカルな話題が主です。それでも「地方発の風」を広く全国へ届けたいとの思いで取材しています。地方ならではの営みや熱意、訴えなどを地域密着の姿勢で受け止め、報じるのが地方紙の役割です。一昨年前に国内外から西根地区に多くの見物客を集めた羽生結弦選手の田んぼアートの記事は、その実例と自負しています。産業や文化、市民の地域づくり活動など、多様な分野で地方は都会をしのぐ「風」を秘めている。角田で改めて実感しています。

いつか地方紙記者志望者に仕事の魅力を尋ねられることがあれば、角田での取材経験を紹介

河北新報角田支局 田村賢心 kakuda@po.kahoku.co.jp ※連絡の行き違い防止のため、配達関連の連絡は販売所までお願いいたします。→ TEL 0224-62-1568/FAX 0224-62-0707

しながら「地方から吹いた風で全国の風車を回す。それを後押しするのが地方紙記者の使命でもあり醍醐味だ」と熱く語ってみたいものです。ちよっぴり先輩風を吹かせながら。



今年の角田市成人式



閉校記念誌の制作に取り組むため、昨年準備を進めていた金津中2年生

編集後記

●先日2月13日午後11時6分の地震。震度6強という強烈な揺れに成す術も無くただただダンスを抑えるのに必死でした。市内でも地割れやマンホールの隆起が見られました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。コロナでうんざりしていたところへこの地震。正に踏んだり蹴ったりです。そんな中、ようやく新型コロナウイルスのワクチンの先行投与が始まりました。一般に出回るまでにはまだ数か月を要するとのことですが、コレが早く一般に行き渡り、三密もソーシャルディスタンスも、不要不急の外出も、何も気にすることなく出来る日常が、早く来ることを願うばかりです。きっともう少しの辛抱です。人類がコロナを制圧する事が出来る日を信じて待つしかありません。東日本大震災から間もなく10年です。地震への備えもお忘れなき様。

次回「あんふいに」は3月28日(日)発行予定です。

☆皆様からのイベント情報等をお待ちしています。原稿は毎月二十日頃までに、当店へ直接お持ちいただくか、FAXまたはメールにてお送り下さい。

編集発行 河北新報目黒新聞店 〒981-1505 角田市角田字泉町137-2 フリーダイヤル(読むニュース) 0120-46-2004

皆様の元気のお手伝いを 月刊かほく あんふいに

第391号 令和3年3月号 【毎月最終日曜日発行予定】

熊原健人選手後援会

前月号でもお伝えしましたが、熊原健人選手は昨年末に楽天イーグルスを戦力外となり、そのまま現役を引退されました。後援会は解散することになります。今まで5年間、温かい応援をいただきまして誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。前月号ではコロナウィルスの為に、後援会総会・後援会会報発行が遅れていたため、御挨拶が不十分でしたので改めまして掲載させていただきます。(裏面には熊原健人選手の挨拶も掲載しております。)

御挨拶

平成27年(2015年)10月22日はプロ野球恒例のドラフト会議の日だ。仙台大学4年の熊原健人は、内心ドラフトにかかるのではないかと期待を持って待っていたのではないかと推察していた。このことは3年時以降の仙台六大学リーグ戦での成績が大きく影響していたと思う。

春のリーグ戦では、4勝0敗でチーム初優勝、その上MVPも獲得。秋のリーグ戦では、対東北学院大戦でノーヒットノーランを達成。さらに4年時も2年連続でのMVPを獲得。この頃からプロのスカウトが東北の地に好投手あり、ということでマスコミの取材も盛んになって話題になっていた。

ドラフト会議の当日は熊原選手の実家である北郷の深山神社に多くの人が集まって、パブリックビューイングの画面に引きつけられていた。一巡目では指名がなく、二巡目に入って「熊原健人、横浜DeNAベイスターズ」とアナウンスされると、会場は喜びと安堵の声で笑顔、笑顔に包まれた。そんな中、私は、角田市からは初めてのプロ野球選手誕生なので、後援会ができるんだろうな、とその場で考えたことを思い出す。

それから何日かたって、発起人メンバーの方から「ちょっとお話ししたいことがあるのでお逢いしたい」との連絡が入り、「熊原健人選手後援会」設立についての話をはじめ知った。早速11月15日に後援会総会、12月7日には本人も出席しての激励会と後援会設立の報告会も合わせて開催された。

2月1日からのキャンプを経て、開幕から1軍メンバーに登録され、7月20日には対ヤクルト戦で5回を2失点に抑えて初勝利を挙げた。2016年はこの1勝だけだったが、翌年は3勝1敗を記録。結局、1軍ではトータルで4勝、18年はイースタンで過ごし、19年に移籍した楽天では6月12日に対ヤクルト戦で2年ぶりの1軍公式戦登板があったが、その後は2軍で調整。20年は1軍登板がなく、11月5日に戦力外通告を受けて退団が明白となった。

プロ野球での5年間の在籍は、夢に見たプロの厳しい側面を経験したと思うし、第一線で活躍するには、まず第一に故障のない体でないとならないと勝負が出来ないことを痛切に感じたのではないだろうか。

本人は、これまで後援会をはじめ、地元の皆さんや知人・友人等多くの方々から声援を受け最善の対策でプロの世界で頑張ってきました。まずは5年間という短い期間ではありましたが、ここに応援して下さいました全ての方々に御礼を申し上げ、感謝の誠を捧げたいと存じます。ほんとうにありがとうございました。

令和3年1月31日

後援会会長 石黒勝昌